ています。カナダは短距離離着陸航空機、航空機シミュレーター、また各種通信機の設計と製造で世界の先頭に立っています。経済提携の相手国としてのカナダは洗練され、魅力に富み、質の高い国であることが広く証明されています。日本もこうした評価が正しいことをいよいよ認められることを疑いません。

相互に重要な関係

経済協力大綱ができ上り、両国の貿易、投資関係の洋々とした将来がひらけていることを私は喜んでいますが、それにもまして感激を覚えるのは、両国関係の他の領域において、たとえば今週調印を見た文化協定、ならびに両国政府が政治協議にますます重要性を置いている事実であります。カナダと日本は、それぞれ別の世界への窓口となっています。カナダが北大西洋条約機構や英連邦の一員として、北アメリカの隣邦関係やフランス語世界での活動から、また国連創草期から平和維持軍、平和監視軍の事実上すべてに参加した長期の様々な経験から得た広い展望、こういうすべてが日本に提供されます。一方日本は、アジア大陸についての深い理解、カナダが経験したことのない政治的、社会的変化の過程の知識、史上最大の経済的成功例の一つを築いた建設者として得た見識、世界のどこにも劣らぬ豊かで特色ある文化などをカナダに分け与えます。カナダと日本は、北太平洋の両側の有利な地点に立ち、世界の超大国のうちの二国に近く位置し、かつもう一つの大国とも地理的につながっていくことを約束しました。

日加文化協定

カナダ、日本の両国政府は十月二十六日、文化及び教育の分野における両国間の協力を助長し、かつ発展させるため、以下の文化協定に調印した。（抜すい）

一、両締約国は、学者、教員、研究員、学生、芸術家、文化機関又は教育機関の構成員、その他文化的、科学的又は教育的活動に従事する者の、両国間における交換を奨励する。

両締約国は、両国の文化機関、教育機関及び専門的機関の間における、密接な協力を奨励する。

一、両締約国は、両国間の文化面又は教育面における関係を強化することに寄与するような、機関及び文化事業計画の設定及び発展を促進するよう努力する。

一、各締約国は、他方の締約国の国民に対し、自国の領域内における修学、訓練又は研究のための奨学金、その他の便宜を与えるよう努力する。

一、各締約国は、大学その他の教育機関において、他方の国の言語、文学、歴史、地理、法制、経済及び文化一般、並びに他方の国に関するその他の問題についての、教授その他の教員の職及び講義を創設し、及び拡充することを奨励する。

一、両締約国は、それぞれの国の大学その他の教育機関で取得される学位、資格証書そ

ているところから、世界に対する理解についてお互いに大きな力になることができます。だが、それより重要なことは、両国が力を合せて、前に述べたような世界的な問題の解決につとめることができる点であります。

日加両国は、他の諸国と一緒に、ニューヨークで、パリで、ジュネーブで活動しています。最近ではプエルトリコで、またマニラで、円卓会議に一緒に参加しています。今週、三木総理大臣と私は、両国が七〇年代をうまく軌道にのせるために、すなわちこの七〇年代の豊かな将来性（最近はぼやけているけれども）が、年代の終りまでには実現するように努める過程で、オタワ政府と東京政府とがこれからはお互いの意見を一層定期的に求めていくことを約束しました。

第三世界の先達

また、われわれは、第三世界の諸国民から軽重を問われていることをまだ十分に理解していない気味があることをお互いに確認しました。これら各国は、われわれ民主社会の働きはどうか、経済・社会問題に対処するためどのような解決策を考えているのか、国際的責任を取る用意があるのかどうか、を見守っています。これら新たに独立をかち得た国々が、個人の自由という、困難ながら報われるところの多い途を選ぶのか、それとも一見魅惑的ながらも、不毛の全体主義の進路をとるのかを決定するのは、ひとえに日本のような国々やカナダのような国々なのであります。

われわれ民主主義工業国の国民は衆目の的となっています。そして、われわれの言動は軽重を問われています。もしこの挑戦にたち向うことができないならば、また他国民が必要としていることがらに対する認識と理解を示し、われわれ自身の社会が自律、誠実かつ情をもって機能する能力をもっていることを自らに立証できないならば、七〇年代の試験に落第し、われわれの子供たちは来るべき数十年にわたってわれわれが盲目であったことを呪うようになりましょう。日本とカナダはこの難題への鍵を、迷路の出口への手引きを握っています。両国は自分で認める以上に強力なシンボルなのであります。われわれの態度によって、働きによって、孫たちや子供たちに「よくやってくれた……」といわれるようにしたいものであります。